

会議等名	平成 27 年 第 3 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 27 年 7 月 21 日 (火) 9 : 30 ~ 11 : 00
場 所	海老名市役所 3 階 政策審議室
出席者	出席者：大治委員長、城向副委員長、市川副委員長、 青木委員、阿部委員、諏訪委員、高橋委員、山田委員、 大島委員、菅生委員、長谷川委員、霜田委員（以上 12 名出席） 海老名市：伊藤企画財政課長、石田政策経営係長事務代理、 久保寺主任主事、横溝

1 開 会

伊藤企画財政課長

2 委員長あいさつ

本日は暑い中、ご苦労さまでございます。今年度については外部評価委員全員が 2 年目以上の経験となりますが、昨年度に引き続き、今年度も事務事業評価に加えて施策評価を実施していただいたことから、各グループがそれぞれに試行錯誤しながら評価作業を進められたことと思います。

外部評価の開始当初を振り返ると、行政評価調書を基にして、その調書を各自が読み込み、特段所管部署から資料を用意してもらうこともなく、評価作業に必要な部分のみを所管部署に確認して評価を実施しておりました。

その後、一度だけ施策評価に取り組んだこともございました。この時の施策評価はあるセクションに限ってグループ毎に担当を分けて評価するといった現在のような評価方法とは異なり、一度に全施策の評価を実施しました。従って、全施策を評価するに伴い、限られた時間の中で全事業を把握する必要性がありました。

これらの段階を経て、事業評価についてのヒアリングを担当部署に実施するようになり、ヒアリングを実施するにあたって担当部署に対して事前に質問事項を出すようになり、さらには所管部署から関連資料を出してもらうというように、より良い評価方法を模索する中で、その手法が年々変化してきました。今年度は私（委員長）が担当してきた過去 10 年間で評価に用いる資料が最も多かったのではないかと感じています。

外部評価の実施方法については、今後も継続して模索していくこととなりますが、平成 27 年度外部評価結果報告書（案）に記された各委員からの総括意見を読むと、的確で意義のある外部評価を実施するためには何が必要なのかという問題が浮かび上がってきているように感じます。

例えば、所管部署から事前に資料を提供してもらうことは良い反面、自宅で資料を読み込んで問題点を抽出することは労力のいる作業です。しかし、評価に必要な資料を担当部署からヒアリングの場で突然与えられても身につきません。

このように今年度の外部評価においては様々な課題や改善点を委員それぞれが抱えているものと思いますので、順を追って皆さんからご意見をいただきたいと考えております。

3 議 題【議事進行：大治委員長】

(1) 平成 27 年度外部評価結果報告書（案）について

各グループ別の評価結果を基に事務局にて取りまとめを行った“平成 27 年度外部評価結果報告書（案）”について事務局から説明を行い、“外部評価全般についての総括意見”を中心に議論を行った。

<主な意見・質疑応答>

【委員】

“総括意見 1”について、行政評価に対する担当部課の意識改革が必要な旨、昨年度に引き続き、意見を出した。行政評価は行政が市民に対して分かりやすく施策や事務事業について説明する場であるものの、行政側にその意識が欠如していると感じた。

【委員】

“総括意見 1”について、行政の自発的改善が求められる旨、意見を出したが、ヒアリングを実施する中で「無くす事業はない」との意見が行政側から出てきた。行政としては法律や国の方針に則って、各事務事業を遂行している意識があるのかもしれないが、事業を見直す余地がないと考えているならば、行政評価を実施する必要性がなくなってしまうのではないか。

【委員】

毎年、外部評価結果報告書を作成しており、市に対しては毎年同じような指摘を外部評価委員会から行っているものの、改善されていないところを見ると、外部評価委員会からの指摘（外部評価結果報告書そのもの）が市職員に伝わっていないのではないかと感じるが、事務局から職員へフィードバックしているのか。

また、“総括意見 1”で「行政評価の本質を外れた説明だと感じました。」といった表現を使ったが、やや強い表現になりすぎているように感じているため、もう少し柔らかい表現に変更いただきたい。

【事務局】

外部評価委員会からの指摘事項を含む外部評価結果については、市長から職員に対して内容を把握するとともに、次年度以降の各施策及び事務事業の実施にあたり、その結果を踏まえるよう指示が出ている。また、昨年度の外部評価結果を受けて、行政評価に対する職員の意識を改めるよう事務局主導で庁内説明会を実施したところではあるが、未だ、意識改革は図れていないものと感じている。

なお、施策ヒアリングの場で「担当部課は事業内容を知りすぎているあまり記述が単純化してしまう」との発言が次長からあったことについては、長谷川委員ご指摘のとおり「行政評価の本質を外れた説明」であると認識する。

【委員】

“総括意見 1”で掲げられていることについては、行政の体質的な問題であると考えことから行政評価を仕組みから変えていかなければならない。そのために、まずは市民が行政評価調書を見て分かりやすく記述する工夫が必要であり、事務事業に係る所管部署へのヒアリングにおいては、まずは行政評価調書に則って各事務事業の説

明をいただきたい。特に事業費については詳細な説明が必要であるが、所管部署によって説明に差がある。

【委員】

「行政評価の本質を外れた説明だと感じました。」という表現はむしろ行政側の行政評価に対する意識を的確に表現しており、この表現は残すべきであると感じる。

今回の外部評価、特に施策評価においては評価をすることの難しさを実感した。評価と意見は異なる。評価は行政評価調書を基に、そこに記載された内容から前年度事業を振り返って是か非かを判断しなければならない。

また、行政評価調書を基に評価を行わなければならない立場として、行政評価調書の事業費欄については改善が必要であると感じた。現状の調書では年度毎の事業費を想定して事業費欄が設けられているが、まちづくり・建設関連の事業は年度を越えて継続した事業費の把握が必要である。この点については、行政評価調書の体裁を含めて再考する必要がある。

なお、理想であり極論でもあるが、行政評価調書だけを見て外部評価を実施できるようになれば担当部署へのヒアリングは必要なくなる。

【委員】

事務事業評価や施策評価を通じて、各事務事業及び各施策を勉強し、知識が深まってくる。すると、担当部署や次長へのヒアリングを行う中で知りたい事項の説明を求めるに留まらず、改善方法等を提案したくなる。

今回、Cグループでは当初、施策に係る次長へのヒアリングを実施した後に、施策評価を行おうと試みたが、ヒアリングを受ける次長が内部評価委員でもあることから、外部評価を実施するにあたり、内部評価の影響を受けないよう、途中からグループ内で事前に施策評価を行った後にヒアリングを実施することとした。外部評価は内部評価から独立したものであることから、この方法を取り入れたことでの的確な評価をすることができたように感じる。

【委員】

施策に係る次長へのヒアリングを実施したことで、各事務事業レベルではなく政策・施策といった、より広い範囲（高いレベル）で行政を見ている次長の意見を聞くことができたことに意義があったと感じる。

また、Bグループが評価を行った事務事業については補助金の交付に関連するものが多かった。補助金の交付を含む事務事業についても、単に補助金を交付するだけでなく、その事業の必要性や内容について考える必要がある。

【委員】

施策評価を実施するにあたり、次長へのヒアリングを先に実施し、説明を聞いてしまうと外部評価が内部評価と同じ評価になってしまう。施策評価及び次長へのヒアリングについては各グループでやり方が異なっているのではないかと思うが、この点についても外部評価委員会として全体で議論する必要がある。

現在評価を実施している施策については第四次総合計画で策定されたものであり、後期基本計画も3年目を迎えた今、時代の変化に追いついていないところが見受けられる。施策評価に対するフィードバックを職員に行っても、世代交代、人事異動がある中で、市としてはなかなか改善されない状況にあるのではないかと感じる。

【委員】

“総括意見2”中に記載されている意見“評価とヒアリングの手順の明確化が必要”について質問。これはどういうことか。

【委員】

Cグループで実施した施策評価方法（グループ内で施策評価を実施した後に、次長へのヒアリングを実施）について説明。

総括意見全般と本日の各委員からの意見を踏まえると、“外部評価を実施しての反省点”といったような表題を掲げ、そこに各委員からの意見を記述してはどうか。

【委員長】

行政評価調書の作り込み自体（体裁）に問題があることについては、これまでの評価を通じて承知しているものの、これを見直すことは難しい。

行政の意識改革に関する意見については改善が見られない限り、言い続ける必要があるものと感じる。

【委員】

報告書（案）P.56以降に掲載されている“4 施策外部評価結果”の体裁について、各施策を構成する事務事業を分かりやすくするために、施策欄の下に事務事業名を記載いただきたい。

【事務局】

事務局で体裁を修正し、事務事業名を記載するようにする。

【委員】

施策評価を実施するにあたり、施策評価シートが分かりにくかった。各項目についての説明をもっと具体的かつ詳細に記すべきである。

【委員長】

行政評価調書及び施策評価シートの体裁等については別途議論の場を設けることとする。

【委員】

施策評価シートには総合評価をランク付して、さらにコメントを記入する箇所と項目別評価をランク付する箇所の2種類が設けられているが、コメント欄をなくし、項目別評価の数をもっと増やして、項目別評価の総合点から総合評価のランクを決定するといった、今よりもシステマチックな評価シートに体裁を改めてはどうか。

【委員】

施策評価シートの見直しは必要と考えるが、コメント欄は残すべきである。コメント欄にしか記載できないような評価もある。

(2) その他

7月21日（火）に平成27年度外部評価結果報告書（案）について全体会で各委員の意見を伺い、7月23日（木）に報告書を確定するのはスケジュール的にタイトであることから、各委員の予定を確認した上で、次回の外部評価委員会の日程を変更した。また、次回の外部評価委員会で報告書を確定することから、その前に、委員長、副委員長2名の3名で三役会を開催し、委員長が修正を施した報告書（案）について確認することとした。

○三役会 7月30日（木）14:30～ 第3委員会室

○第4回海老名市外部評価委員会 7月31日（金）9:00～ 401会議室

4 閉 会

伊藤企画財政課長

以 上